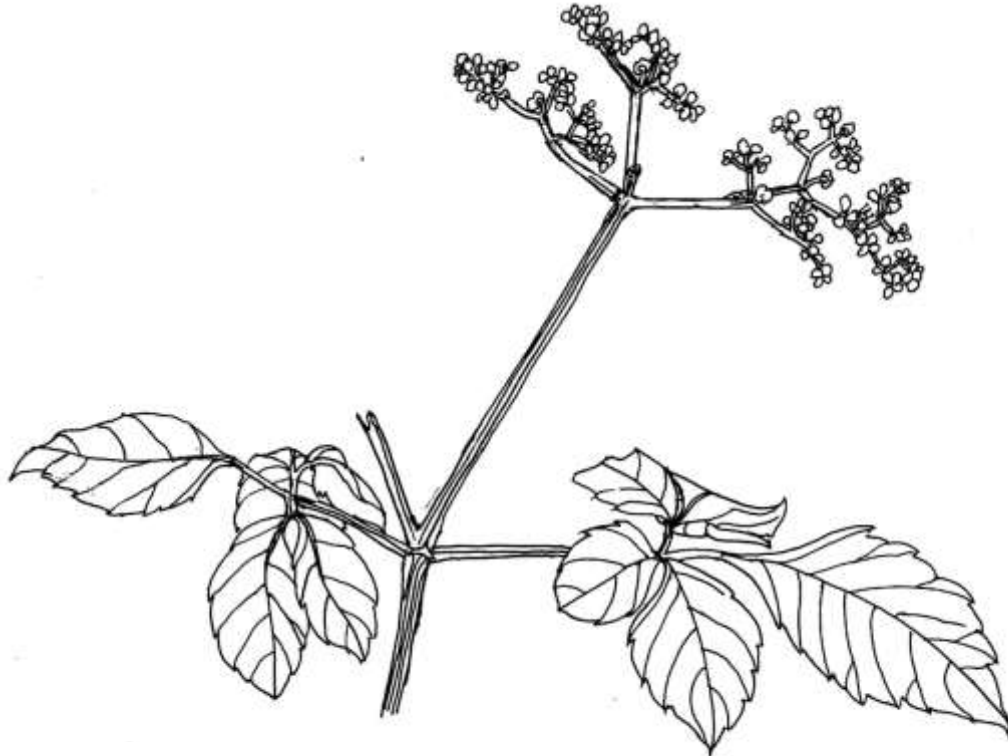


花ちゃん・オー君・モンタ博士・フツ博士のかくかくドド植立ててくら

国立市立国立第七小学校

平成29年9月30日 NO.52 (452)



ヤブガラシ (フドウ科)

オー君 「あれあれ?この草、どこかで見たことがあるぞ。」

花ちゃん 「モンタ博士、これは、ヤブガラシという植物ですね。」

モンタ博士「そのとおり。ヤブガラシはどこにでもよく出てきて、やぶをからしてしまうから、ヤブガラシという名前がついたんだ。雑草としてあちこちに出てくるからこまった草なんだ。」

オー君 「でも、ぼく、この草にハチやチョウが来ているのを見たことがあるよ。」

モンタ博士「この草は、小さい花が集まったものだけど、蜜がいっぱいあるんだよ。写真を見てごらん。オレンジやピンクがあるね。それが花なんだ。」(学校HPはカラーでよくわかる。)



花ちゃん 「とっても小さい花ですね。オレンジやピンクでないものは、これから咲くのですね。100こくらいの花があるかな。」

モンタ博士「そうだね。一つ一つの花は小さいけど、順番にあちこちとさくことによって、ハチやチョウ、ハナアブなどに来てもらうんだね。」

オー君 「ぼくは、アリが来ているのも見たことがあるよ。」

花ちゃん 「アリも、蜜をなめに来ているのかしら。」

モンタ博士「そうだろうね。このヤブガラシはね、蜜がよく出るから、いろいろな昆虫がやって来るんだよ。ほらほら、ハチがやって来たみたいだよ。」

花ちゃん 「ふーん。そうなんだ。蜜があったら、きっと、あまいんでしょうね。」

オー君 「よし！ハチみたいになめてみよう。」

花ちゃん 「え！ほんとうになめるの？」

オー君 「うわあー。あまい。あまいぞ。」

花ちゃん 「すごい！オー君。大発見ですね。」

モンタ博士「そうだね。あまいのは蜜のせいだけどうして、ピンク色やオレンジ色をしているんだろうね。不思議だね。」



花ちゃん 「そういえばそうですね。花の形もちがうのかな。」

オー君 「あ！そうだ。ねえねえ花ちゃん。花がどうなるか、今から継続して観察しようよ。」

花ちゃん 「楽しそうですね。もちろん賛成です。よく観察すれば、ヤブガラシの花の秘密がわかるかもしれないわね。」

モンタ博士「そうだね。モンタ博士も仲間に入れておくれ。」

オー君 「もちろんですよ。モンタ博士には、デジカメで写真を撮ってもらいましょう。」

花ちゃん 「それでは、花が咲き始めたら、観察しましょう。」

オー君 「写真を取る時刻を決めようよ。そうすれば、変化していく様子がよくわかるかもしれないね。こりゃ、楽しい観察になるぞ！」